

ICT を利活用した質の高い教育の推進についての方針・計画

◆基本的な考え方

ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の利活用により、学修者本位の学修の実現、効果的で質の高い教育の推進を目指す。

◆取組 1 ICT 環境の整備

ICT を利活用した質の高い教育の推進を図るため、以下の環境整備を行う。

- (1) ネットワーク環境の整備
21 号館、45 号館、51 号館、70 号館の短期大学エリアに Wi-Fi ネットワークを整備する
- (2) コンピューター実習室の整備
学生が利用可能な PC を 45-301 教室 (50 台)、45-302 教室 (50 台)、51-103 教室 (6 台) 設置し、授業時間以外は開放する
- (3) BYOD の推進
授業時や課題作成、レポート作成等の ICT 利用の促進を図るため、学生個人用ノートパソコンの携帯を推奨 (希望する者にはタブレット型端末貸与)
- (4) 学修支援システムの整備
学修支援システム (WebClass) の活用とクラウド化
- (5) 双方向型授業の推進
クリッカー、タブレット端末等を活用した授業の推進
- (7) e-ラーニング (自主学習) の支援
社会人基礎力育成講座 I 及び II において、一般教養 (人文・社会科学、自然科学) や山梨県の歴史・自然・経済・社会・文化等に関する学修の推進と実施状況の把握
- (8) 学修歴証明デジタル化の推進
各種プログラムでのオープン・バッジの利活用

◆取組 2 技術支援・教育支援体制の整備

教育活動において、学生及び教職員が効果的に ICT を活用できるための技術支援・教育支援を行う。

- (1) 教職員への支援
 - ①学修支援システムの活用支援
 - ②ICT 利活用に係る技術支援研修
- (2) 学生への支援
 - ①学修支援システムの活用支援
 - ②学内 ICT 機器の利活用支援

◆取組3 セキュリティへの対応

以下の規程・方針に基づき、セキュリティへの対応を行う。

- (1) 情報セキュリティポリシー（基本方針・対策基準）
- (2) 情報セキュリティ管理運用規程
- (3) プライバシーポリシー（個人情報保護方針）

◆取組4 DXによる学修者本位の学修の実現

DXによる学修者本位の学修の実現に向けた取り組みを実施するとともに、指標を設定してその達成をめざす。

<取り組み内容>

- (1) 学修支援システム（WebClass）の学修ポートフォリオを用いた正規課程の授業における学生の習熟度等のデータの把握と可視化、学生指導の実施
- (2) 習熟度等のデータに基づき、本学の教育課程編成等における改善の検討

<指標設定>

- (1)（アウトプットに関する指標）習熟度等のデータをもとに、学生の学修状況に応じた学修計画へのアドバイス・学生指導の実施【目標：全学生に対して毎学期1回以上】
- (2)（アウトカムに関する指標）学生の満足度の向上【目標：卒業時満足度調査「全体的な満足度」90%以上】

<評価体制>

取組内容や指標については、自己点検・評価委員会で達成状況を確認する。さらに、学外助言評価委員会に報告し、評価を受けることとする。